

主 論 文 要 旨

報告番号	① 乙 第	号	氏 名	大 草 翔 平
主 論 文 題 名				
Clinical Features of Essential Tremor and its Impact on Quality of Life in Japan (日本における本態性振戦の臨床的特徴と生活の質への影響)				
(内 容 の 要 旨)				
本態性振戦 (Essential Tremor : ET) は、主に動作時振戦を特徴とするが、多様な非運動症状 (Non-Motor Symptoms : NMS) も伴うことが知られている。しかし、ETにおけるNMSの診断的意義については依然として不明な点が多い。本研究では、ETのNMSおよび運動症状を、パーキンソン病振戦優位型 (Parkinson's Disease-Tremor Dominant Type : PD-TDT) および健常対照群 (Healthy Controls : HC) と比較し、NMSの存在および診断的意義を明らかにすることを目的とした。 ET患者23名、PD-TDT患者23名、HC22名を対象にした。ET及びPD-TDTの診断は国際運動障害学会 (Movement Disorder Society : MDS) の診断基準及び核医学検査の施行により確認された。運動症状、NMS、及び生活の質 (Quality of Life : QOL) は、Clinical Rating Scale for Tremor (CRST) 、MDS- Unified Parkinson's Disease Rating Scale (UPDRS) 、Non-Motor Symptoms Scale for Parkinson's Disease (NMSS) 、Odor Stick Identification Test for Japanese (OSIT-J) 、及びQuality of Life in Essential Tremor Questionnaire (QUEST) を用いて評価した。 結果として、ET患者はHCと比較してNMSS総得点およびMDS-UPDRS Part IBスコアが有意に高く、睡眠障害、疲労、排尿障害がより重度であった。CRSTスコアはQUESTスコアと有意な相関を示した。ロジスティック回帰分析により、CRST Part B及びOSIT-JスコアがETとPD-TDTを鑑別する主要な因子として同定され、感度87%、特異度90%という高い診断精度を示した。つまり、ET患者はHCと比較して、より重度のNMSを示すことがわかった。また、ETとPD-TDTの鑑別には、運動症状及びNMSの評価が必要であり、NMSの診断的意義が示唆される。ETの正確な診断および適切な管理には、包括的な評価が不可欠である。				